

御所浦恐竜の島博物館

令和6年3月20日
リニューアルオープン

基本理念

- 「天草 1 億年の大地の記録」を学べる博物館
- 「天草の自然に関する教育活動」の情報拠点
- 「御所浦住民の交流」の場

施設の概要

- | | |
|--------------|----------------------|
| ● 延べ床面積 | 2,718 m ² |
| ● 常設展示室 | 749 m ² |
| ● 企画展示室 | 269 m ² |
| ● 調査・研究室 | 147 m ² |
| ● コミュニティセンター | 167 m ² |
| ● 構造 | 鉄筋コンクリート3階建て |





1 階常設展示室 大型骨格標本の展示



1 階常設展示室 天草の実物化石展示



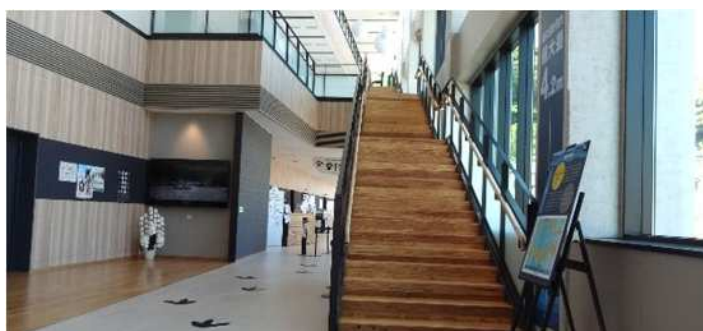
2 階常設展示室 現代の天草



2 階常設展示室 剥製の展示



1 階 ミュージアムショップ



1 階 エントランスホール

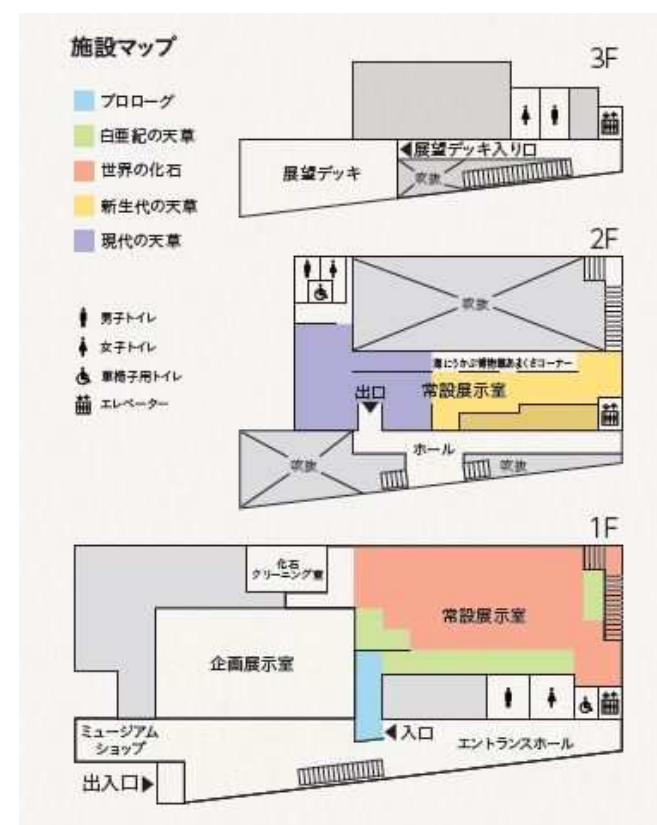


表 1. 御所浦恐竜の島博物館観覧者（令和 5 年3月～令和 7 年9月27日まで）

	有 料 観 覧 者							年間パスポート観覧者				無 料 観 覧 者						後納分	観覧者 数	前売観覧 券 使用者
	個人						有料 観覧 者計	観覧者			年パス 観覧者 計	大人	大・高	小・中	幼児	無料 観覧者 計				
								個人												
	個人	団体	個人	団体	個人	団体		大人	大・高	小・中										
3 月 分	1,206	38	52	3	369	46	1,714	26	2	2	30	271	26	219	374	890	0	2,634	0	
4 月 分	1,393	9	46	0	392	28	1,868	70	2	13	85	137	4	136	335	612	0	2,565	9	
5 月 分	1,990	29	50	5	613	39	2,726	83	0	3	86	140	9	148	554	851	0	3,663	2	
6 月 分	579	98	8	0	102	0	787	62	0	3	65	91	1	109	154	355	0	1,207	6	
7 月 分	918	171	19	1	347	139	1,595	42	0	2	44	193	26	162	243	624	4	2,267	2	
8 月 分	2,501	142	145	41	1,179	97	4,105	70	5	16	91	293	25	201	668	1,187	25	5,408	11	
9 月 分	795	45	44	48	175	15	1,122	35	1	0	36	143	38	145	227	553	9	1,720	12	
1 0 月 分	706	134	19	45	123	9	1,036	37	0	2	39	182	80	159	139	560	13	1,648	4	
1 1 月 分	686	166	10	0	101	19	982	55	0	12	67	183	16	284	143	626	12	1,687	1	
1 2 月 分	428	12	18	0	106	0	564	56	1	1	58	196	20	207	96	519	0	1,141	0	
1 月 分	533	0	20	0	117	0	670	56	1	6	63	127	1	49	156	333	0	1,066	0	
2 月 分	398	0	28	0	66	0	492	109	1	0	110	159	36	40	119	354	0	956	3	
3 月 分	699	42	88	39	202	106	1,176	75	3	0	78	228	8	59	233	528	0	1,782	0	
4 月 分	579	0	19	0	154	0	752	53	0	2	55	149	6	126	159	440	0	1,247	3	
5 月 分	1,244	55	30	0	339	31	1,699	81	0	2	83	147	7	63	272	489	0	2,271	0	
6 月 分	352	0	11	0	41	16	420	52	0	0	52	127	42	67	80	316	0	788	0	
7 月 分	728	40	20	18	251	123	1,180	63	0	2	65	196	13	127	195	531	0	1,776	0	
8 月 分	1,586	32	113	0	680	62	2,473	62	7	7	76	274	42	181	397	894	3	3,446	0	
9 月 分	321	0	9	0	77	0	407	19	0	0	19	91	5	61	123	280	10	716	0	
計	12,832	886	547	182	3,892	498	18,837	776	16	60	852	2,343	290	1,918	3,441	7,992	63	37,988	53	
割合	33.8%	2.3%	1.4%	0.5%	10.2%	1.3%	49.6%	2.0%	0.0%	0.2%	2.2%	6.2%	0.8%	5.0%	9.1%	21.0%	0.2%	開館以来		
(令和5年度 2,634) (令和6年度 25,160) (令和7年度4～8月 9,531)																		38,041		

「御所浦恐竜の島博物館」リニューアルオープンに向けて

～官民一体となった受け入れ体制の構築～

- 令和6年3月「御所浦恐竜の島博物館」リニューアルオープンに向け、多くの来島者が見込まれることから、受け入れ体制の構築が重要。

★市長講話開催(R4.4.22)

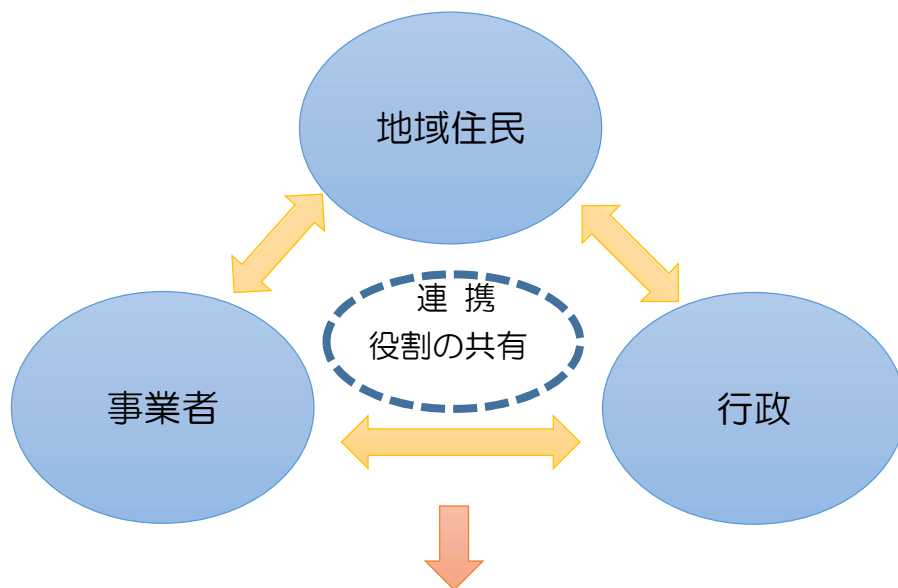


【住民組織の設立・庁内連携】

- ①一般社団法人アコウプロジェクト設立（R4.3.9 設立）
- ②「御所浦せんばいなか」設立（R4.6.8 設立）
- ③庁内連携会議の開催



資源の洗い出し・磨き上げ、人材（起業、移住）の発掘
課題の抽出（交通、食事処、宿泊、お土産品 etc）



来島者の満足度向上と、収益に繋がる持続可能な仕組みづくり

■課題の抽出

- | | | |
|-------|---|-----------------------------|
| 交通手段 | → | 定期船増便、レンタサイクル、電気自動車（20キロ未満） |
| お食事処 | → | 振興会、キッチンカー、移住者開業 |
| 宿泊場所 | → | 民泊、空き家の活用（リノベーション） |
| おもてなし | → | 全島案内（ガイド） |
| 商品開発 | → | 地域限定商品（恐竜モチーフ） |

現状① 交通（海上交通・島内周遊の移動手段）

○来訪者の車両が多くなることで混雑を招き、島内の生活に支障をきたすことや、交通の安全性が低下することは避けなければならない。

□海上交通便

- ・海上タクシー：12 隻（最大 12 人乗り）
①6 人(平均)／隻×12 隻×12 往復（倉岳～御所浦）【約 860 人】
- ・定期船収容(平均)／隻：85 人 フェリー：185 人
②棚底港→御所浦 13 便【約 1500 人】
③本渡港→御所浦 5 便【約 450 人】
- ・計(①+②+③) 【約 2800 人】

□島内周遊の移動手段

- ・レンタサイクル 3 台（しおさい館）
- ・電気自動車 1 台（御所浦タクシー）

現状② 宿泊（民宿・民泊）

□民宿：約 160 人

□民泊：約 20 人 ※4 軒（4～5 人/軒）

○御所浦地域の空き家対策をはじめ、移住定住のサポートを目的とした
「アコウプロジェクト」設立（代表 鋤崎智広・地域おこし協力隊）

↓

- ・「ごしょんなベース」地域交流＋移住体験施設が 2023 年春ごろにオープン

現状③ 食事処

□食事処 ： 5 店

□弁当販売店： 9 店

○牧島に洋菓子店がオープン！（2022 春）

※シェアリング推し（テイクアウトで島の自然を体感！）

現状④ お土産（商品開発支援）

- 恐竜商品（雑貨・お菓子）の販売（しおさい館）
 - 博物館でも恐竜商品に限定したものを販売予定
- 新商品の開発支援（石材や木材を使用した商品、お菓子 etc）
- 📌「天草市6次産業化推進事業補助金」の活用

（施設整備事業）

市内で生産された農林水産物を主たる原材料として、新たに加工・流通・販売等に取り組む場合に必要となる加工施設等を整備する事業

（新規商品開発事業）

市内で生産された農林水産物を主たる原材料として新商品を開発する事業

※パッケージ費（デザイン料、版の作成費用など）も対象

【補助率】

対象経費の1/2以内の額を予算の範囲内で交付する

上限額：施設整備事業 150 万円、新商品開発事業 50 万円

現状⑤ 島を巡るしかけ（まるごとミュージアム）

□島内周遊プラン

「あつまれ！ あまくさの島 @ごしょうら」 R4.6.5～R5.3.31 開催中
（天草宝島観光協会天草東支部）

（内容）

数々の島のミッション（魅力・体験）をクリアし、リワードをゲット！

5つのカテゴリで、145のミッション！

（伝馬船体験・化石採集体験・鳥峠・自然観察やオブジェの発見 etc）

□化石採集クルージング（熊本県の御所浦地域活性化事業）※事前予約要

期間：8月1日～9月25日（※8月は毎日、9月は土日祝のみ）

対象：4歳以上（熊本県民に限らない予定）※コロナの状況による

運航：9時30分～11時30分

料金：大人 3,000 円/人 こども 1,500 円/人（4歳～小学生）

□今年度より、別途「釣りプラン」の新規メニュー ※事前予約要

期間：8月6日～9月25日（土日祝のみ）

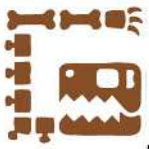
対象：4歳以上（熊本県民に限らない予定）※コロナの状況による

運航：15時00分～17時00分

料金：大人(中学生以上)5,000 円/人 小学生 2,500 円/人

□デジタル技術を活用した調査支援業務委託（恐竜の島：R4委託）

- ・AI（人工知能）を活用した化石認証アプリの開発（熊大と提携）
- ・AR（拡張現実）の開発など



1 目的

- 天草市立御所浦恐竜の島博物館を利用した理科の現地学習を行うことで、児童の理科に対する興味関心を高めるとともに、学力の定着に繋げる。
- 御所浦の地層を実際に観察することで、地元にある地層・地質にも関心を持って学習する態度を育てる。

2 学習单元名

小学校6年 理科 单元「土地のつくりと変化」

大日本図書 たのしい理科 教科書P124～151

3 単元の目標

- ①土地のつくりと変化についての理解を図り、観察、実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。
- ②土地のつくりと変化について追究する中で、主にそれらの働きや関わり、変化及び関係について、より妥当な考えをつくりだす力を養う。
- ③土地のつくりと変化について追究する中で、生命を尊重する態度や主体的に問題解決しようとする態度を養う。

4 留意点

- ①本学習は、【小学校】学習指導要領解説理科編で示される内容を、博物館を活用して、天草の素晴らしい自然遺産を体験し、天草地域の土地のつくりや変化について理解を深める。

第6学年の目標及び内容

B 生命・地球 (4) 土地のつくりと変化

ここでの指導に当たっては、児童が土地のつくりや変化について実際に地層を観察する機会をもつようにするとともに、映像、模型、標本などの資料を活用し、土地を構成物といった部分で見たり、地層のつくりや広がりといった全体で見たりすることで、理解を深めようとする。

- ②本単元の学習を進める中で、博物館での学習や御所浦での体験学習がより深められるように、天草の地域教材を取り入れる。
- ③学習資料は、教科書、学習用スライド、博物館パンフレットなどを効果的に活用する。

5 単元の学習（例）12時間扱い＋予備（割愛する）

6 『地球の歴史探究学』 日程

学校発 棚底港発 博物館着			御所浦港発			御所浦港着 棚底港着 学校着		
		学芸員 説明	博物館見学	昼 食	化石採集	クルージング 地層見学		
10:00	10:30			11:45 12:30	13:30	14:45	15:15	

7 持参物

（化石採集において）

- ・軍手 ・ビニール袋（採集した化石を入れる※5 個まで）
- ・古新聞（見開き3枚程度）

（その他）

- ・タオル ・リュックサック等（荷物入れ） ・弁当 ・水筒 ・筆記具
 - ・その他必要と思われるものは各学校で検討されてください。
- ※タブレット持参も可。

8 服装

- ・体育服 ・帽子 ・運動靴

9 手続き

- ・日程が決定したら、バス会社、海上タクシー協会、御所浦地区コミュニティーセンター（昼食会場、博物館3階）に連絡を入れていただき、予約をお願いします。御所浦地区コミュニティーセンターの予約ができなかった場合は、博物館にご相談ください。

（海上タクシーの乗船人数は1 艇 13 人程度です）

- ・荒天のため、延期される場合は前日までに御所浦恐竜の島博物館、バス会社、海上タクシー協会、御所浦地区コミュニティーセンターに連絡いただき、日程の調整をお願いいたします。

○天草市立御所浦恐竜の島博物館（休館日：毎週 月曜日）

Tel：0969-67-2325

○あまくさ海上タクシー協会事務局（しおさい館内）

Tel：0969-67-1234

○御所浦地区コミュニティーセンター

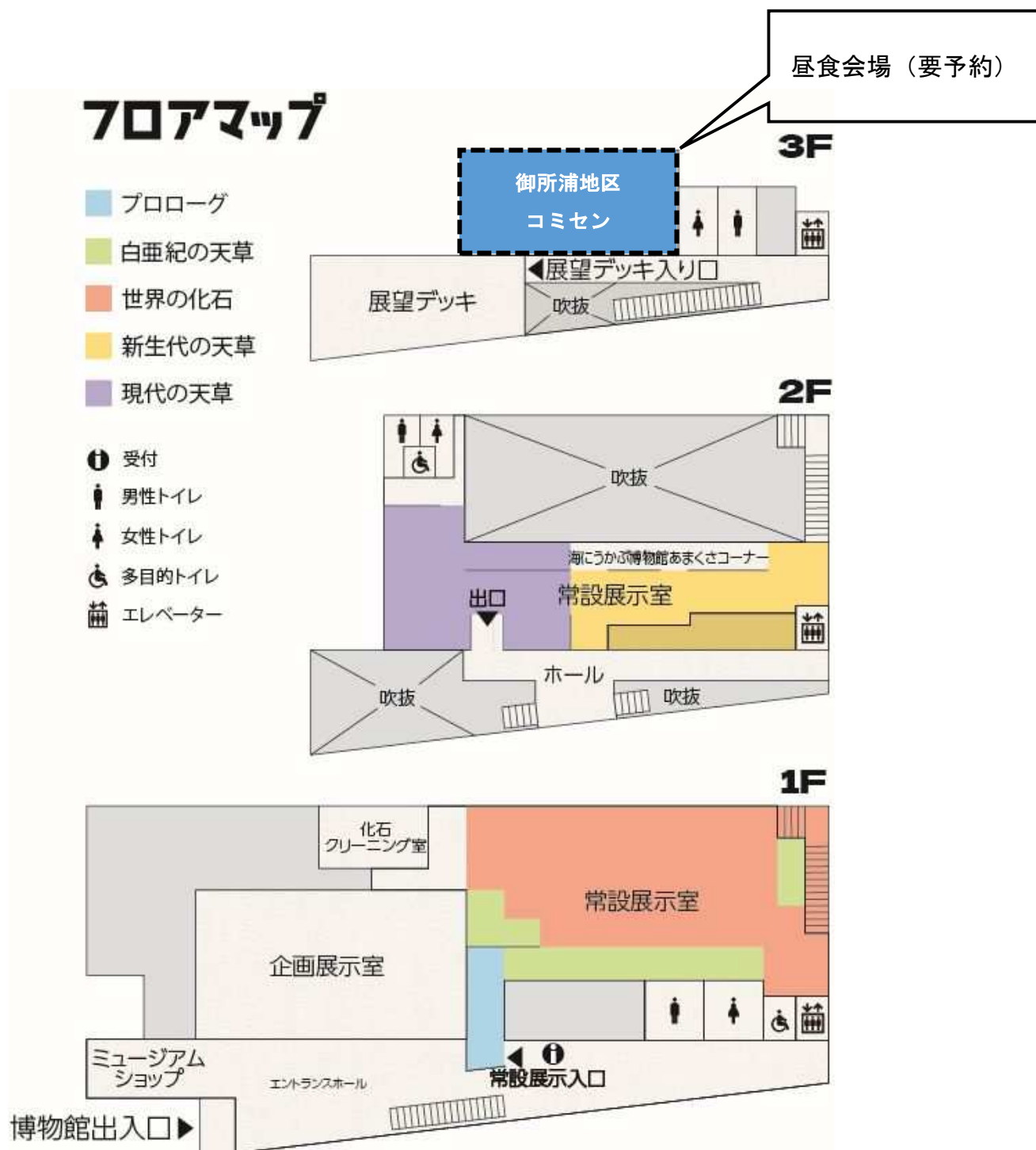
Tel：0969-67-2407

10 実施後の報告

- 地球の歴史探究学終了後、天草体験学の Google ドキュメント※にまとめをお願いします。

※天草市学校教育課クラスルーム内にある「天草体験学」のページ
「天草体験学 各学校まとめ」スプレッドシート内にあります。

11 本事業に係る支出処理は、総合的な学習活動支援事業と同様に行います。



※御所浦恐竜の島博物館公式ホームページより引用

北海道網走市議会行政視察 質問事項回答書

令和 7 年 1 0 月 9 日 (木)

天草市立御所浦恐竜の島博物館

恐竜の島博物館整備事業について

御所浦恐竜の島博物館のコンセプト、規模、展示の様子などについては別紙博物館概要を参照。

1. 地域資源の活用と観光振興への効果について

御所浦層群などの地質資源を活かした博物館整備が、地域の観光振興や経済効果にどのように貢献していますか。

◎類似・関連質問

①地元への経済効果

②観光資源としては、誘客の状況や収支は。

③博物館開館後に見込まれる観光客数や経済効果について試算や目標があれば伺いたいです。

④観光資源としての今後の目標と課題

⑤オープン後の来館者数と年齢層、インバウンドの状況

⑥「ツーリズム」としての他との連携状況は。

⑦クレヨンしんちゃんとのコラボの反響と費用対効果

回答：

博物館は 9 月末現在で 1 万 5 千名を超えるお客様に来館いただいているが、来館者の多くは大型連休や夏休みや春休みの期間と土曜日、日曜日に集中し、秋から冬の時期や平日は少ない（表 1）（②、③、⑤）。

令和 6 年度の来館者目標値は、3 万 7 千人としていたが、実際は 2 万 8 千人弱で目標に達することはできなかった。その要因としては、（各月の目標値を、夏休み期間の 7 月から 8 月までを月に約 9 千人、夏休み期間を除く 3 月から 11 月までを、月に約 2 千 4 百人、閑散期の 12 月から 2 月までを月に約 9 百人を見込んでいた）、特に夏休み期間の 7 月～8 月にかけて、全国的な酷暑の影響により、類似の博物館でも、前年の同時期と比較し、3 割から

4 割減少しており、当館も、酷暑の影響による人の動きが低調であった。

一方で、ゴールデンウィークやお盆の期間は、多く来館をいただいたものの、フェリーによる車両の積み残しなどが発生し、課題も浮き彫りとなった。これは後に、関係者による検討会議を定期的を開催し、課題解決に向けた協議を行い解消している（①、④）。

閑散期の来館者を増加させる取組みとして、通年の取り組みでは学芸員が博物館を紹介する「まるごと博物館解説」や「特別展ガイドツアー」等を開催している。この取り組みは昨年度も行っており、来島者の利用しやすい午前中への時間帯への開催時間変更や、分かり易いイベント名称への変更等を行うなど、今年度は改善を行っている。常設展示については、展示解説修正や照明増設等、昨年度に判明した改善すべき点の改修を行う。

博物館目的で御所浦町に来られた方が、博物館以外の観光スポットを巡って楽しめるよう、野外解説看板の盤面張替え、アンモナイト館の展示改修、そして御所浦ジオツアーリズムガイド等の団体と共に御所浦地域の見どころ等を案内できるガイド人の養成などを行っている（①、②、⑥）。このほか周遊バスの島めぐりツアー、熊本県主催の島一周クルージングなど観光コンテンツが組み合わせられたツアーが提供されている。

地域の経済効果の表れとして目立つものとして飲食などのスモールビジネスの創出。交流人口の拡大によるまちのにぎわい作りに繋がっている。宿泊客数は建築工事により増加し、現在はそれから少し減少した数値となっている（表 1）（①、②、③）。

表 2. 御所浦地域の宿泊者数

	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	計
R4	63	66	221	234	336	302	242	487	280	288	240	180	2939
R5	141	219	219	224	301	251	301	523	349	364	492	296	3680
R6	251	297	250	277	257	216	233	402	235	404	372	222	3416

※博物館建築工事は R4 年 8 月～、博物館開館は R6 年 3 月～

来館者からは、出発地、国籍、年齢の詳細、性別などの諸情報を入手していないため正確な状況をお伝えできないが、旧御所浦白亜紀資料館（R5.11.20 まで）時代は年間 10 名程度であったのと比較し、現状で年間 100 名を超えており、確実にインバウンドは増えている（⑤）。

博物館のある御所浦地域は、四方を海に囲まれた離島であり、その自然環境を活かした観光コンテンツが数多くある。例えば、昔ながらの木造の伝馬船を魯で漕ぐ体験や、船でしか行くことができない白亜紀の壁や化石発見地を巡るクルージング、地域最高峰の烏峠のトレッキングなど、着地型の旅行商品として、その情報発信や販売の窓口を博物館の前にある「御所浦しおさい館（＝地域の特産品の取扱・定期船待合所）」で行い訪問者がリーチしやすい環境となっている（⑥）。別紙 1 に博物館開館までに行政と民間とが何を想定し、何を準備すればよいのか話し合った記録をまとめた（①、⑥）。

クレヨンしんちゃんとのコラボレーション事業は、熊本県のクレヨンしんちゃん家族都市協定（熊本県・埼玉県・秋田県）によるもので、博物館の応援隊長として活動するものである。9 月 20 日に任命式を行ったばかりであり、その効果を推し量るのは難しいが、来館者数は前年度の同時期を上回っている。この事業とあわせて博物館開館 1 周年記念特別展での支出約 32,000 千円に対する費用対効果を約 42,000 千円と見積もっている（⑦）。

2. 教育・学習支援機能の充実度について

学校教育や地域学習との連携はどのように行われていますか？また、学習支援コンテンツの充実度について教えてください。

◎類似・関連質問

⑧地域の文化振興として、教育との連携は。

⑨学校教育や地域学習活動との連携はどのように実施されていますか

⑩学術的研究と教育での活用の具体的な取組

回答：

博物館の教育への取り組みには大きく分けて 2 つある。一つは天草市教育委員会と連携・実施する小学校理科授業『地球の歴史探究学』および、各学校から依頼される総合的な学習の時間等である。もう一つは天草地域 2 市 1 町（天草市・上天草市・苓北町）でつくる天草自然資源活用推進連絡会による事業『海にうかぶ博物館 あまくさ』の活動の一部である教育支援活動である（⑧、⑨、⑩）。

一つ目の天草市教育委員会と連携・実施する小学校 6 年生全員（令和 7 年度 538 名）を対象とした理科授業『地球の歴史探究学』については、博物館に全員訪れ、館内および化石採集体験、島一周クルージングまでのすべての行程で学芸員による解説を受ける授業である（行程や詳細は別紙 2 参照）。各学校からは、総合的な学習の時間で利用する地域資源として、化石や地層のことを問われることが多い。また、文化課独自の「自然学習見学支援事業」を設け、天草市の小・中・高校を対象に、天草地域に点在する自然の見どころに学習のために出かける場合、バスの借り上げや船舶費用を支援する取り組みを行っている（⑧、⑨）。

もう一つの学習支援事業を持つ、「海にうかぶ博物館 あまくさ」の取り組みを紹介する。天草地域（天草市、上天草市、苓北町）は天草ジオパークとしての活動を、令和 2 年 3 月末に終了させ、新たに天草自然資源活用推進連絡会を発足させ『海にうかぶ博物館 あまくさ』という活動を始めた。天草は自然資源が豊富な場所で、その自然を満喫するだけでなく、自然と向き合い、自然の仕組みを理解し、後世に美しい自然を残す活動を支援している。その活動の一つとして教育支援活動がある。自然に関する野外学習の支援や教育現場への支援として「出前授業」を自治体の枠を超えて行っている。「出前授業」では学芸員が教室に出向き講義を 1 限行い、後に野外見学地での解説を行うものである。出前授業は主に地層や化石のことを学習する高学年をお願いされる学校が多いが、3 年生、4 年生を対象に内容を変えて授業を行なう場合もある（⑧、⑨）。

学術研究は大学および他の博物館等と調査・研究を通じて学術論文の執筆や記者発表などを行っている。地元の天草高校はスーパーサイエンスハイスクールの指定を受けており、地層や化石の現地指導や学術支援を行っている。また、現地学習の受け入れを行い、解説を行っている（⑩）。

3. 整備事業の課題と今後の展望について

整備事業の過程で直面した課題や、今後の施設運営における展望について教えてください。

◎類似・関連質問

- ⑪総事業費が多額だが、実施にどんな苦労がありましたか。
- ⑫博物館整備にあたり、地域住民や関係者の理解・協力を得るためにどのような取組がありますか。
- ⑬運営費や維持管理費の財源確保について、どのような仕組みを想定されていますか
- ⑭建設、運営、維持管理費と国や県からの補助は。

回答：

博物館建設の始まりは、平成31年策定の天草市御所浦白亜紀博物館（仮称）整備事業基本計画の策定がスタートであった。平成26年8月に天草全域が天草ジオパークとして日本ジオパークの認定を受け、御所浦白亜紀資料館を拠点施設として、天草全域のジオパーク活動を推進していた。計画は、御所浦地区コミュニティセンターの一角を利用し、活動している御所浦白亜紀資料館において、展示スペースや活動の制約が多く、その発展性や継続性が課題となっている状況を踏まえ、新たな天草ジオパークの情報拠点施設としてふさわしい機能を持った「博物館」として、また、御所浦地域住民の「交流拠点」となるような機能を併せ持つ施設を整備するというものである。

策定にあたり、平成29年11月には、市議会全員協議会で「専門家および地元関係者と十分に協議し、身の丈に合った施設として整備していく」と説明している（⑫）。また、御所浦地区市民ふれあい座談会では市長より「皆様とも十分に協議し、身の丈に合った施設を整備する」と報告している。平成30年5月に御所浦地区コミュニティセンターもすべて解体し新しく整備する方向で推進する御所浦白亜紀博物館基本計画を6月補正予算に計上し、策定された。当初の開館設定は2023年度であった。

この計画により天草市では、①「天草1億年の大地の記録」を学べる博物館、②「天草の自然教育活動」の情報拠点、③「御所浦住民の交流」の場を3つの基本理念として整備を行うと策定した。

建築設計業務と展示設計業務を同時期に入札し、業者を決定している。これは、建築計画と展示計画とのミスマッチが生まれないための選択であり、両業者の設計に無理がないことで、完成度の高い施設づくりにつながる。2020年にはコロナが流行し、会議は対面とzoom会議を併用した。更に、建築資材の高騰などにより、建設費用が当初の予算10億円を超えることになり、議会への理解を求め了承された。しかも、当時国や県からの補助もなく、一般財源での支出であった。しかしながら、「工事費用を安く叩くことで、工事関係者の不利益を招くことだけはしないでほしい」とのことばを議員から頂き、関係職員一同大変励みになったことよく覚えている(⑪)。

御所浦恐竜の島博物館は3階がコミュニティセンター機能となっている。また、現在特別展を開催している企画展示室も、通常は集会や催しを行うことができるスペースとして有料で貸し出している。この企画展示室の広さ270㎡は、まちづくり協議会という地域の代表から要望のあった広さであり、それを確保すべく展示配置を再度変更し直すなどの経緯があった(⑪、⑫)。

展示においてももっと多くの展示計画があったが、費用を抑えるため極力什器を少なくした(⑪)。

建物は維持管理費用を考慮し、省エネ設計BELS ZEB認証を受けている(⑬)。また内装には天草産材を一部に利用してほしいと要望させてもらい、業者の努力により実現している。

令和7年度は開館して1年が経つなかで展示の改善箇所が分かったため、展示改修を年度内に行う予定である。また、市民ふれあい座談会などで市民からの要望に応えるためにも効果的な改善計画を構築中である。